

高梁川 流域 キッズ

たかはしがわりゆういき

高梁川流域ゆかりの

偉人・賢人特集

いじん けんじん とくしゅう



活躍した年:

1923~1992年



活躍した分野:

将棋棋士



ゆかりのある場所:

大山名人記念館



おおやま やすはる
大山 康晴

新高総早 倉敷市
見梁社島 掛原口庄岡
市市市町 町市市町市



おおやますはる たいしゅう ねん いま らしきしにしあちちょう う
大山康晴は、大正12（1923）年、今の倉敷市西阿知町に生まれました。

さいごろ しょうぎ おぼ さい ひらいながのしょうにだん しどう う
5歳頃から将棋を覚え、8歳のころに平井長之丞二段（アマチュア）の指導を受けました。

あと しょうがつこうそつぎょう どうじ おおさか で どうきょう きみきんじろうくだん うちでし
その後、小学校卒業と同時に大阪に出て同郷の木見金治郎九段の内弟子になります。

しょうわ ねん ねん みと よんだん しょうだん ぐんたい けいけん しょう
昭和15（1940）年にプロとして認められる四段に昇段し、軍隊を経験したあと、昭
わ ねん ねん ななだん しょうだん
和22（1947）年には七段に昇段しました。

しょうわ ねん ねん きむらめいじん たいきよくしょうり かんさい きし はじ めいじん
昭和25（1950）年に木村名人との対局に勝利し、関西の棋士として初めて名人とな
しょうわ ねん ねん しゅつじょうぜんきせん めいじん おうしょう おうざ ぜんはちだんせん かちぬきせん えぬ
ると、昭和29（1954）年には出場全棋戦（名人・王将・王座・全八段戦・勝抜戦・N
えいちけいはい はやざ おうい せいはい つづ きれんぞくめいじんい ほじ せいせいせいめいじん しかく
HK杯・早指し王位）を制覇し、続いて5期連続名人位を保持し、15世永世名人の資格を
え
得ました。

しょうわ ねん ねん ますだこうぞう やぶ わかん おうしょうい うば かえ
昭和32（1957）年に升田幸三に負けて無冠になりますが、すぐに王将位を奪い返し、
ねんご はつ よんかんおう めいじん おうしょう くだん おうい しょうわ ねん きせいせん たんじょう
2年後には初の四冠王（名人・王将・九段・王位）、昭和37（1962）年に棋聖戦が誕生
ごかんおう
すると五冠王にもなりました。

う たつじん いちじだい まも こま うつく う めいげん
「受けの達人」として一時代をきずき、「守りの駒は美しい」など、受けにまつわる名言も
おお のこ おおやますはる めいじんつうさん き れきだいざいた かくとくすうつうさん き
多く残している大山康晴の名人通算18期は歴代最多であり、タイトル獲得数通算80期は
れきだい い せいせき
歴代2位の成績です。

しかく しゅとく ぎ えいせい なの えいせいしょうごう
その資格を取得したものは、その後ずっと「永世～」と名乗ることができる「永世称号」と
じゅうごせいめいじん えいせいじゅうだん えいせいおうい えいせいきせい えいせいおうしょう いてつ
して、十五世名人、永世十段、永世王位、永世棋聖、永世王将の五つをもっています。

なかはらまこと だい せいせいせいめいじん つぎつぎ ぼんねん やまい
中原誠（第16世永世名人）によって次々とタイトルをうばわれましたが、晩年は病とも
たたか きゅうざい いせい ねんな
闘いながらも、A級に在位したまま平成4（1992）年亡くなりました。

とうきょう おおさかりょうしやうざいかん けんせつ じんりよく にほん きかい はってん こうけん
東京、大阪両将棋会館の建設に尽力するなど、日本の棋界の発展にもとても貢献しました。